

銀行はなくなる？

～FinTechが未来を変える～

# 目次

1. フィンテックとは
2. 世界でのフィンテック
3. 世界と日本の比較
4. 日本のフィンテック
5. メリット・デメリット
6. まとめ

# フィンテック (FinTech) とは

ファイナンス Finance

+

テクノロジー Technology

- 新しい金融ビジネスとして注目されている。
- 金融事業の利便性・効率性アップ。
- 「銀行」の存在を意識させない手軽なサービス。
- IT分野のベンチャー企業の参入あり。

→**金融業界に変化が起こる！？**

## ■ 決済

- スマホなどでクレジットカード決済

## ■ 送金サービス

- スマホなどでリアルタイムに送金

## ■ 会計・口座管理

- 口座と家計簿が連携したクラウドサービス

## ■ 資金調達

- クラウドファンディング

# 世界のFinTech

## アメリカ

- 5年以上前から使用（主に 決済・送金・口座管理 など）
- Apple Pay・Android Payなどモバイル決済サービスを皮切りに拡大。

欧米以外（新興地域）でも急成長

## 中国

- 大手ネット企業による個人間送金サービス。

## アフリカ

- スマホによる送金サービスの拡大。

欧米では銀行がピークの半分まで減っている…

# 世界での実用例

## ■ Apple Pay ・ Android Pay

- アメリカで2010年に始まった電子決済サービス。
- スマホにクレジットカード機能を搭載。
- スマホをかざすだけで支払いできる。

## ■ MagicBand

- アメリカのディズニーランド内での決済サービス。
- MagicBandを身につけて買い物、アトラクション・ホテルの利用ができる。

## ■ フィンテックの応用

- アメリカの自動車メーカーでは従業員の体内にマイクロチップを埋め込む。
- 簡単な電子ロック解除や端末操作が可能に。
- 作業の手間を削減！

世界では広くフィンテックが普及し、  
様々なサービスが誕生している。

# 日本と世界の比較

世界全体のフィンテック企業への投資額

240億ドル (2016年)

- 過去最高額で、2年前と比べると2倍以上の額  
→急速なフィンテックの拡大  
今後増加する見通し



# 各国のフィンテック関連企業への投資額

アメリカ	122億1000万ドル
中国	19億7000万ドル
インド	16億5000万ドル
イギリス	9億7000万ドル
日本	6500万ドル

- 日本のフィンテックの乗り遅れがみられる。
- フィンテック関連の起業の少なさが原因。

# 各国のクレジットカード利用率

	クレジットカード	デビット・チェック
アメリカ	24 %	30 %
イギリス	25 %	28 %
日本	18 %	ほぼ 0 %

- 日本の現金を利用した決済が多い。
- キャッシュレスの決済がまだ身近になっていない。

# 日本のFinTech

決済・送金サービスが普及

「PayPal Here」

ネットを利用した決済システム。手軽にクレジットでのお金のやりとりができる。

「LINE Pay」

LINE上にクレジット登録し決済・送金ができる。

「楽天スマートペイ」

Rakuten FinTech Fund設立によりフィンテック事業への投資がスタート。

## 家計簿・資産管理・会計サービスも誕生

- 銀行口座と家計簿が連携したクラウドサービス。
- 領収書や請求書を読み取り、自動的に入力できるクラウドサービス。

### 「zaim」

家計簿アプリ。600万人が利用しローン返済表や様々な機能がある。

### 「レシーピ」

レシートを自動入力し、レシートの食材からレシピを提案してくれる。

# FinTechを使うことで・・・

## ■ メリット

- ・ 決済や送金の手間が最小限  
手数料が安くなる（個人間での送金無料に）
- ・ 資産運用や投資が身近になる  
例) ソーシャルレンディング、ロボアドバイザー
- ・ 速く正確な融資が可能に

# FinTechを使うことで・・・

## ■デメリット

- ・ 情報を管理するために強固なセキュリティ対策が必要になる。

- ・ オンライン状態でなければ行えない

→インターネットを通じてのサービスがほとんど…

- ・ 体制整備や研修などに時間とコストがかかる

## さらなる普及のためには

- 法制度の整備、規制緩和  
フィンテック企業への出資をもっと簡単にする。  
(2018年 改正銀行法が実施される予定)
- 日本独自のフィンテックへ  
→日本人顧客の性質に合わせたサービス

# まとめ

- フィンテックの拡大
  1. 小規模で複数の派生事業の発生
    - 先進的な市場が誕生
    - あらたな経済発展のカギに！
  2. 金融サービスが「安く・早く・便利」に
    - より暮らしやすい社会に！